

# 新教科「てつがく」を中核に 据えた教育課程の構想

— お茶の水女子大学附属小学校の取り組み —



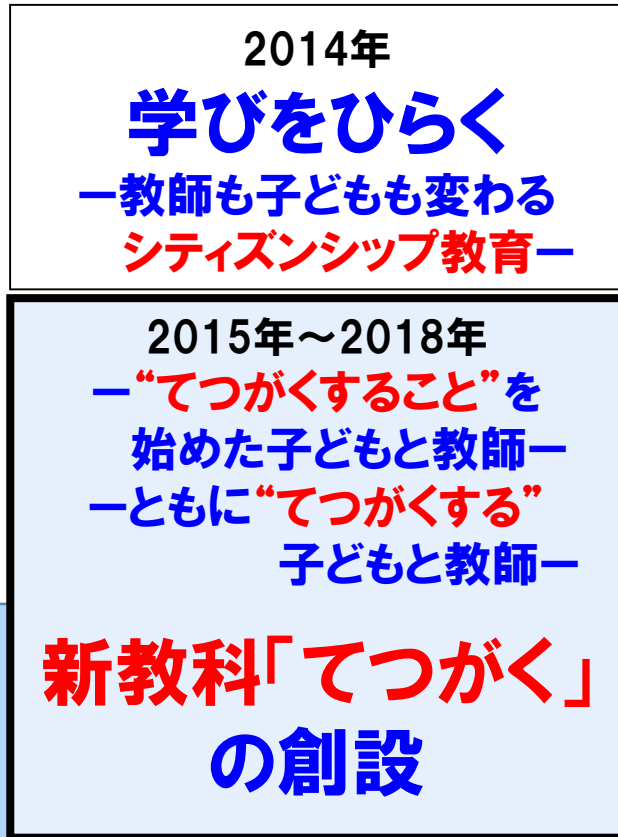
2019年1月15日 研究開発学校研究協議会  
お茶の水女子大学附属小学校

# 文部科学省研究開発学校の指定 (平成27年度～平成30年度)

## 【研究開発課題】

『道徳の時間』と他教科の関連を図り、  
教育課程全体で、人間性・道徳性と思考  
力とを関連づけて育む研究開発を行う。  
そのために、自明と思われる価値やこと  
がらを、「対話」や「記述」などの多様な  
言語活動を通して問い直し考える新教科  
「てつがく」を創設する。

# 研究の経緯



2011年～  
2013年



2008年～  
2010年



# “てつがくすること”



既知と捉えている事象や概念の意味や価値などに対して“**問い**”をもち、対話や記述などを通して、結論を急ぐことなく「**概念探究**」をし、「**共通了解**」を見出しながら思考していくことで、自らの**考えを広げたり深めたり**していくこと

# 新教科「てつがく」の創設

友達って何？



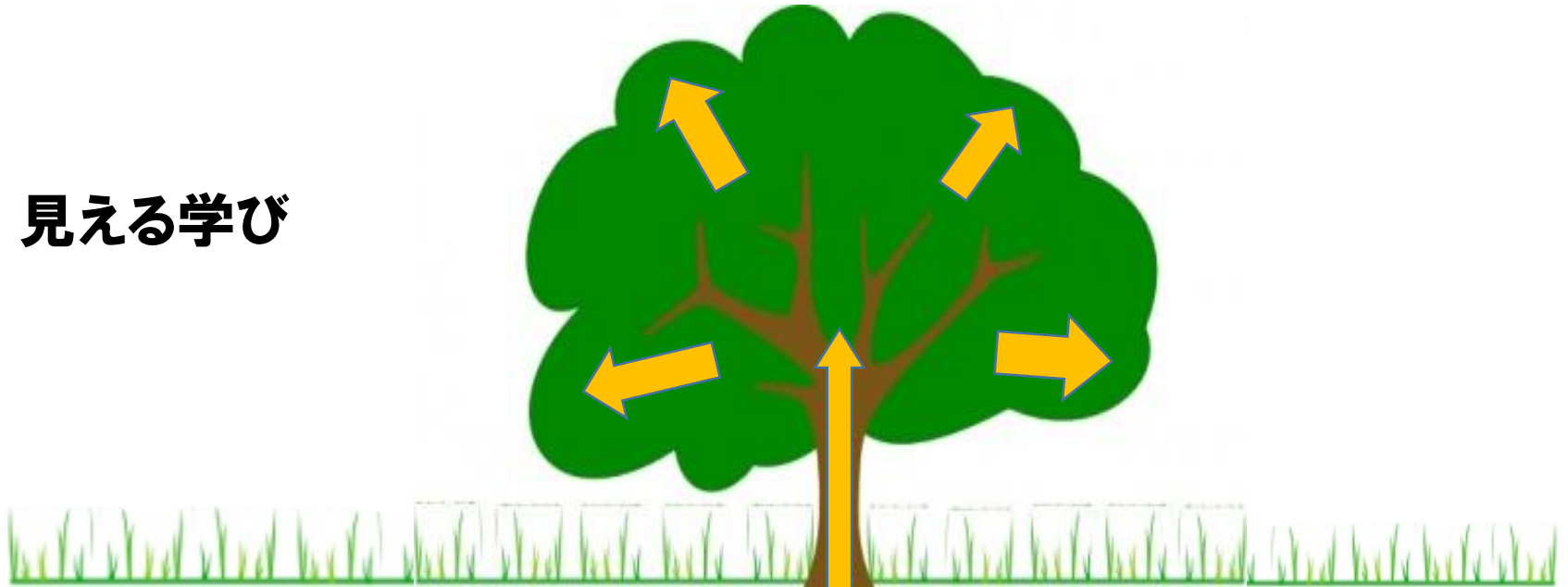
なぜ勉強  
するの？

## 新教科「てつがく」

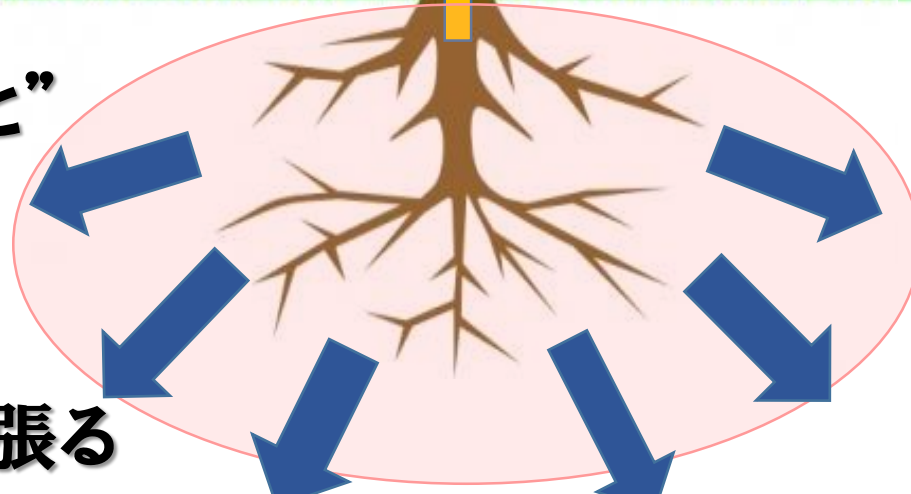
自明と思われる価値やことがらについて問い直し、考えることを通して、人間性・道徳性を育成しようとする教科

# “てつがくすること”における 「個の学び」の様相のイメージ図

見える学び

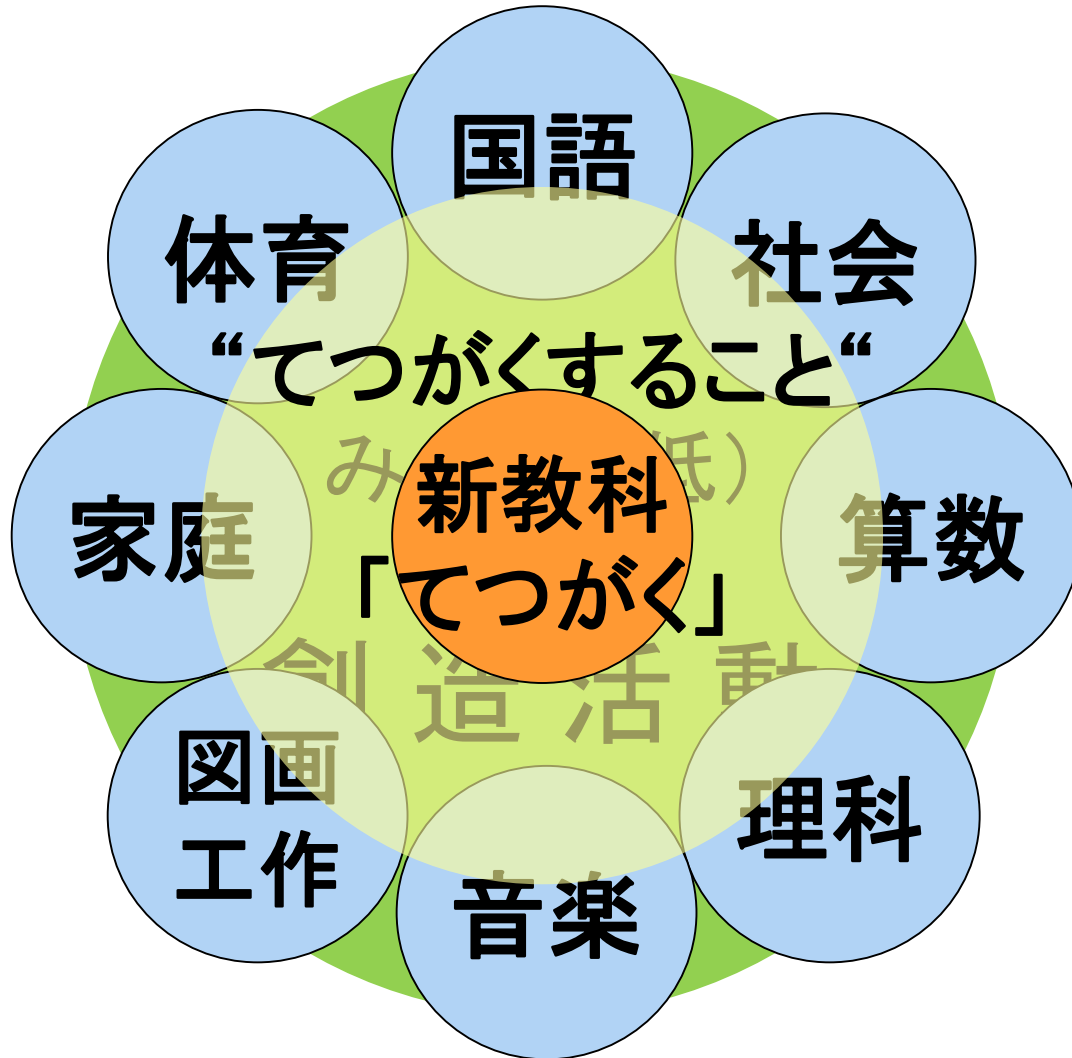


“てつがくすること”



自分の考えの  
“根”を広く、深く張る

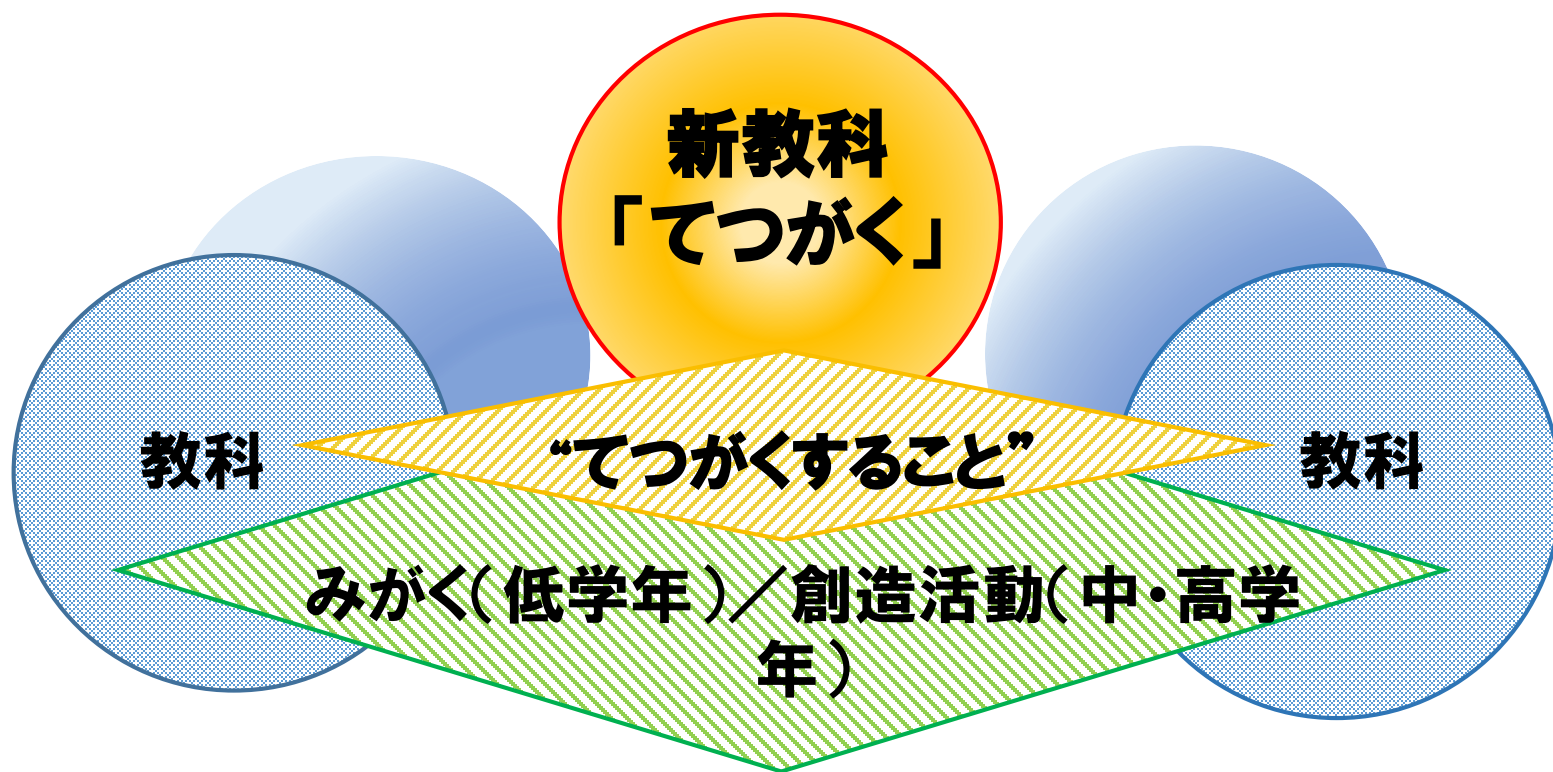
# 教育課程の構想



“てつがくするE1JとJ”を  
中核とした

教育課程のイメージ

# 教育課程の構想





# 新教科「てつがく」の目標

自明と思われる価値やことがらと向き合い、  
理性や感性を働かせて深く考えねばり強く  
問い続けたり、広く思いを巡らせ多様に考え  
たりすることを通して、民主的な社会を支え  
る市民の一員として、創  
造的によりよく生きるた  
めに、主体的に思考し、  
前向きに他者とかがわる  
市民性を育む。



# 新教科「てつがく」で育てたい 資質・能力

- 価値やことがらに、疑問・問いをもち、それらについて、批判的・多面的・論理的に思考し問い続ける。
- 自らの思いや考えを伝えるとともに、異質性の尊重、多様性の受容を意識して、応答性のある関わりをもつ。
- 自他の思考の仕方の共通性や相違性に関心をもちながら、価値やことがらを比較し、概念化したり共通理解を得たりする。

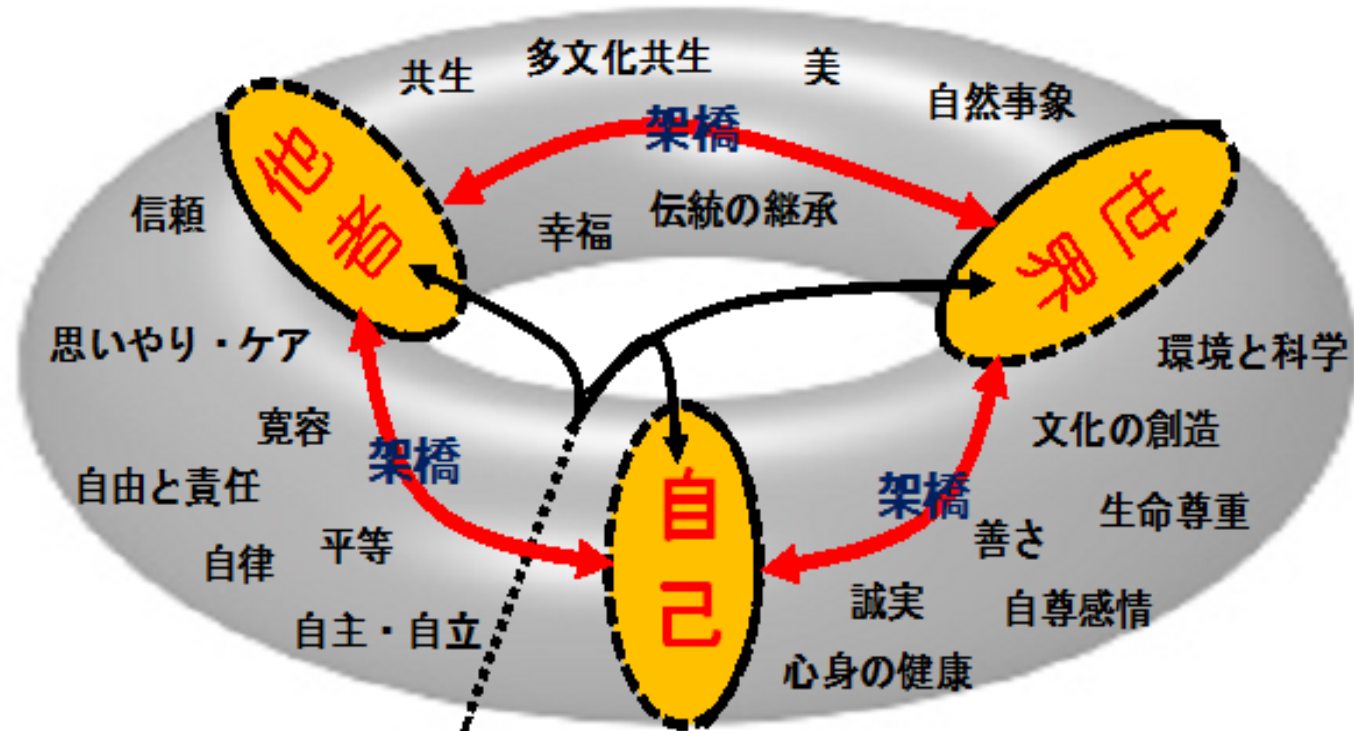
# 新教科「てつがく」の価値内容

## 考える価値内容の例

自己 に関わるもの	他者 に関わるもの	世界 に関わるもの
自主・自立 自律 自尊感情 誠実 心身の健康 など	自由と責任 平等 思いやり・ケア 寛容 信頼 共生 など	生命尊重 自然事象 環境と科学 伝統の継承 文化の創造 美 幸福 など

# 新教科「てつがく」の価値内容

## 考える対象とする価値内容との関係



題材

〔図3〕考える対象とする価値内容の例（改訂版）

**授業の様子を  
ご覧下さい**

# 新教科「てつがく」と問い



# 子どもたちが話し合ってきた 問いの例

## ●●● 中学年 ●●●

自己

- なぜ遊びはあきるのか
- 頭が良いってどういうこと
- 当たり前ってなんだろう
- なぜ秘密って教えたくないんだろう

他者

- 友達と親友はどう違うのか
- 話し合いは何のためにするの
- けんかをするのは損なのか得なのか
- なぜ虫が好きな人と嫌いな人がいるんだろう

世界

- なぜ学校はあるのか
- サンタクロースはいるのか
- なぜ時間を守らなければいけないのか
- 物にはなぜ名前があるのか

## ●●● 高学年 ●●●

自己

- 責任ってどんなこと
- がまんとは何か
- 好きとは
- 友だちとは何か

他者

- なぜ人は他人を気にするのか
- 自由とは何か
- ついて良い嘘悪い嘘
- 決定の仕方は多数決でよいか

世界

- 時間とは何か
- 差別はなぜおきるのか
- やさしいかたちとは
- 無限はずっと続くのか



# “てつがくする”問いの変化

## 6年生「自由とは何か」

**自由とは？**

完全な『自由』で生きている人はいない等



**何が人を不自由にするのか？**

思い込んでいる自分の内側からの制限となる



**そもそも、不自由がないとはどんなことか？**

制約を受け入れるか否かは、自分で「自由」に「選択」できる



# 新教科「てつがく」をささえるもの

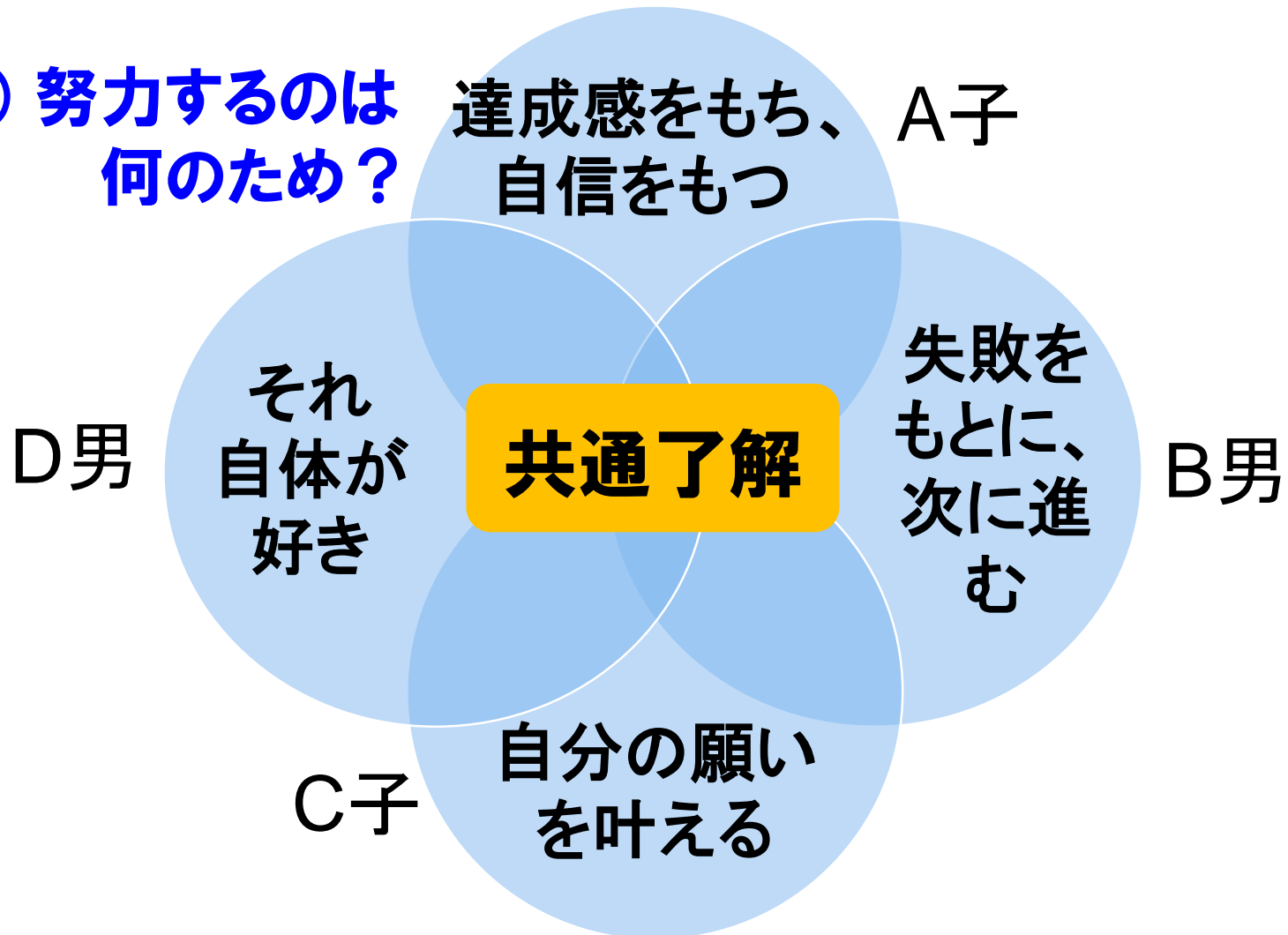


# サークル対話



# 概念探究・共通了解

(例) 努力するのは  
何のため?



**「自分を信じられるようになるため」**

# 教師がてつがくする



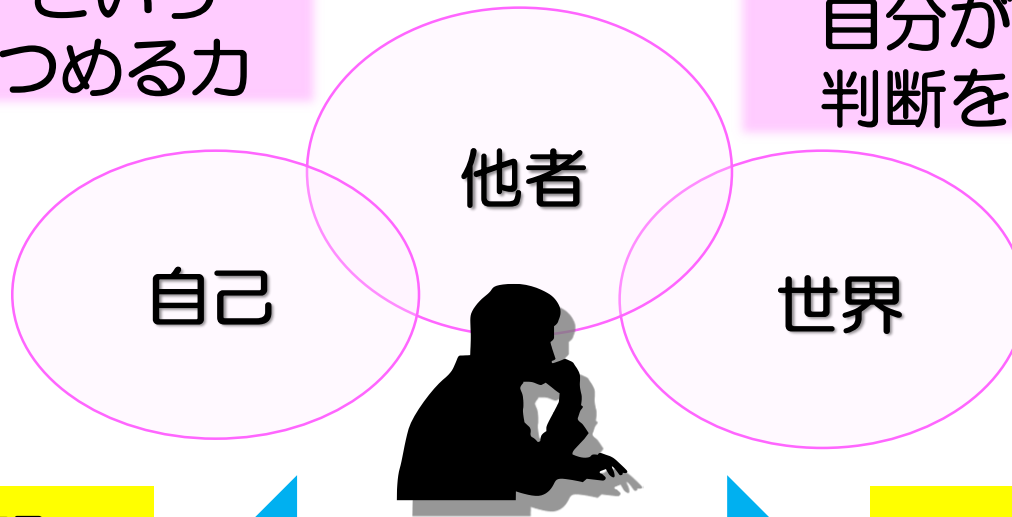
てつがくの授業とは？

サークルとてつがくは何が違う？

# 自己評価

「自分」という  
ものを見つめる力

よりよく生きるために  
自分が納得できる  
判断をしていく力



自分の理解の  
あり方を知る

“てつがくする”

自分との関係  
を見つめる

自分や自分たちの学びを見つめ、  
客観的に捉えていく必要

自己評価

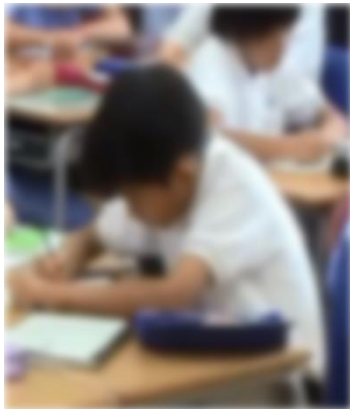
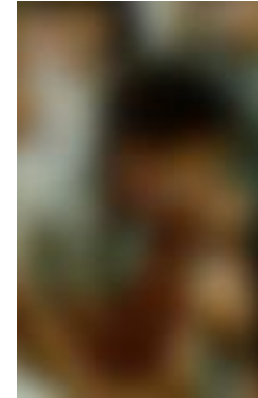
# ある子どもの 4年間の学びを見つめて





# 「時間」に関連する問いについて

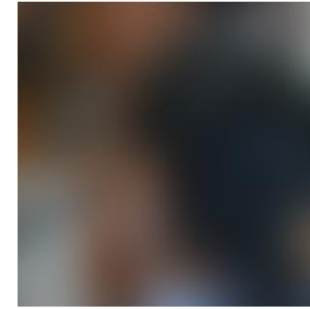
時間というのは、進むと、戻ったり止まったりすることはありません。そして、今もずっと動き続けています。



時間とは、とある時に味方になって、また、とある時には敵になるもの。人の都合の良いようにつくったものなのかもしれない。

# 「友達」に関連する問いについて

友達とは、信頼できて、色々  
と相談でき、一緒に親しく  
遊べる。時にはけんかしても  
すぐにまた仲良くできたりする。



真の友情は信頼ができ、注意できる  
ものであり、偽りの友情は、さみしさ、  
ずるさからできていて、注意できな  
かったり、本当のことができない  
ものだと思います。





# 新教科「てつがく」の実践



# 中学年で抽象的な「世界」に関わる 価値内容を取り上げた例

3年生「『ある』ってどういうことだろう？」



# 同一の「問い」を異学年で行った例

3年生「『大人』ってどういうことだろう？」

3年生



「たくましい」  
「やさしい」

6年生



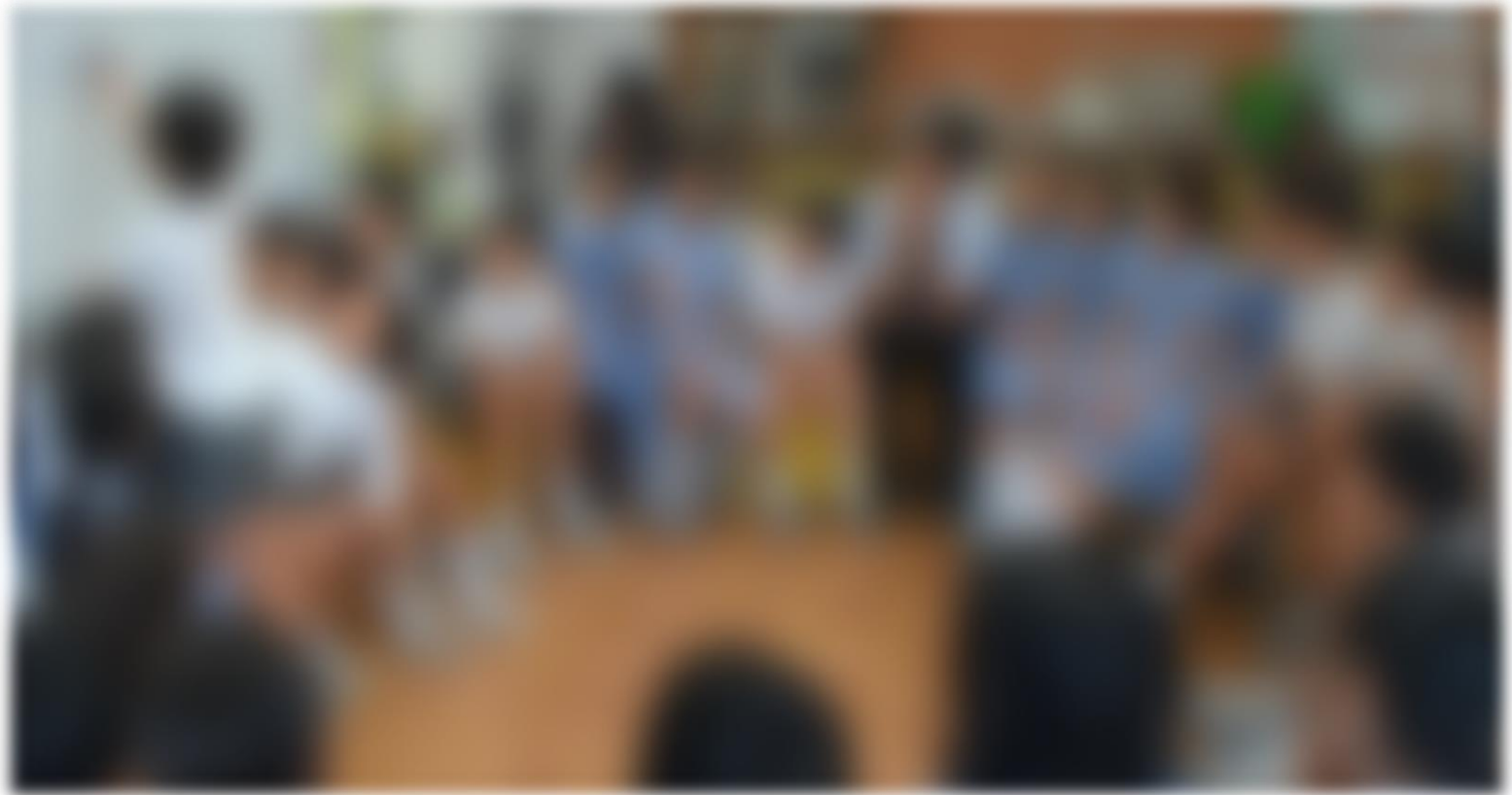
「見通しをもつ」  
「立場に対する責任が重くなる」  
「自由が増えると責任も増える」

# 現実の生活の実態にそった「問い」から 自分を見つめた例

5年生「なぜ(音楽会の)オーディションに  
挑戦する人としらない人がいるの？」



# 新教科「てつがく」 授業展開のイメージ ～実践例「ゆめの世界って何？」～





# 問いを決める

授業展開のイメージ  
～実践例「ゆめの世界って何?」～

サークル対話で話題  
になったこと

子どもたちから  
出た興味関心

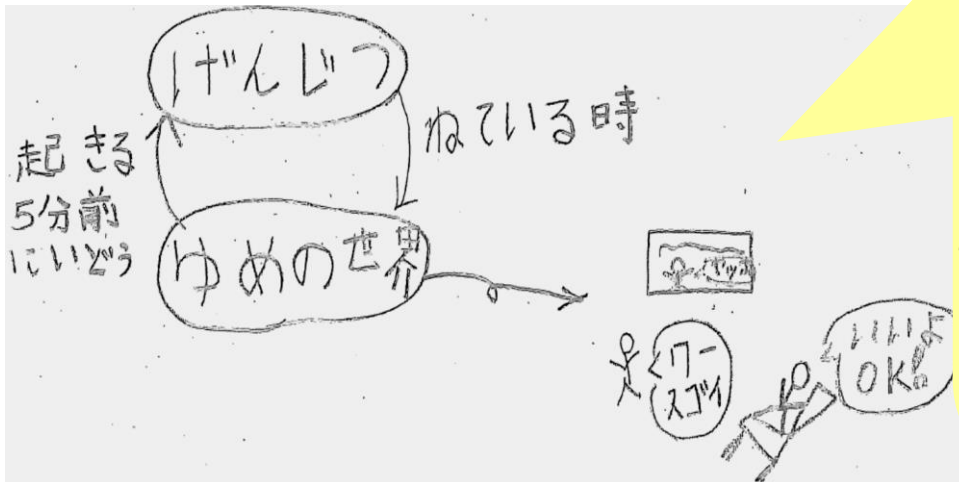
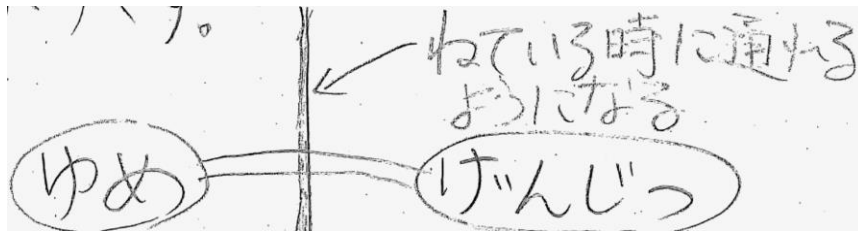


The whiteboard contains the following sections and notes:

- Section 1 (Left):** Sticky papers with text like "親友と友達のうがい", "2ファミリー", "1つかくとは?", "怖いとは", "学校に来る必要はあるの?", "怖しとは".
- Section 2 (Top Left):** "5ファミリー (17歳 中学生)", "天オって どういうこと?", "意味? 基準?", "天オには何かの面を思ふ どの基準をよめる?", "やる意味は?", "同じよか、それによつて (要ふこと)", "何故か大さ変わるかはわからない".
- Section 3 (Top Center):** "嫌なことを忘れたい 思い出したくない 記憶 忘れていい 忘れたい記憶は", "いらぬ記憶、という概念がそもそもわからない.", "いらぬという考えがなし。(物にはあるが記憶にはない.)", "えー!", "赤ちゃん", "ドラフトで選んだ.", "生かしたかった可能性", "自分か生かして来使命", "存在".
- Section 4 (Top Right):** "どういうふうに話合っているの?", "大をオコトにしろ", "注文の多い料理店", "大はどの思っている?", "そもそも下に見ているか?", "前提条件、前提 or 対等", "なせ人は動物を手に見ている?", "4ファミリー (16歳 高校生)", "当たり前とは?", "あたり前とは?", "あたり前とは?", "未来とはいったい?", "何年後 50-70", "未来の世界", "どうなっている?", "文明の進化? 環境の進化? 進化? 歴史?", "知恵の進化、便利、豊か、好こと", "どういった未来か、考えて終わらして行く気が、その意味で、今～未来から未来は～17613".
- Section 5 (Bottom Center):** "地面に立っているとは?", "詩が深まるか? どういうこと?", "3 世界の1人か立っていることの意味", "宇宙の中の地球に立って行動している意味.", "宇宙", "人間", "巨人", "たぐらぬ中の人々", "何かしらやることがある".
- Section 6 (Bottom Right):** "未来とはいったい?", "何年後 50-70", "未来の世界", "どうなっている?", "文明の進化? 環境の進化? 進化? 歴史?", "知恵の進化、便利、豊か、好こと", "どういった未来か、考えて終わらして行く気が、その意味で、今～未来から未来は～17613".

# 対話する

ゆめと現実がどこかでつながっていて、  
ゆめという習い事みたいなところに行って…



私たちが見ているゆめは、  
ゆめの世界の習い事に  
いっている人が映画監督の  
ようにさつえいしているもの  
を見ているのではないかと  
思います。

# ふり返る

授業展開のイメージ  
～実践例「ゆめの世界って何？」～

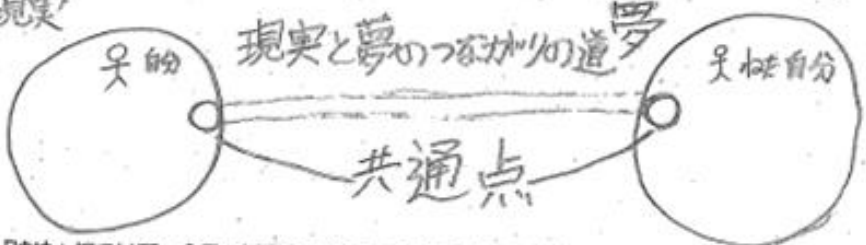


◆今の自分の考えや思い 一考えたこと 考えていること わからないこと 納得できないこと

ぼくは Aくんの いつもおきている 時間になると 強制的に 終了させられるという 気持ちがよくわかります。

ぼくは 平日 いつも 6:00におきています 土日祝日は もっと ゆっくりねたいのに 6:00くらいに 夢が 終わって おこされて しまいます。

夢の世界と 現実の世界は 何か 共通点 がある つながっている と思います。なので 同時に 楽しい こと うれしい こと がおきる ことがある と思います。

現実  夢

◆「ゆめ」について、今日の授業をうけて、さらにみんなで考えてみたいことは？



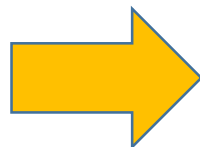
# “てつがくすること”と 教科の学び



# 教科と てつがくすることの関係

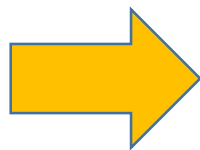
## 社会科を例に

概念そのものを  
根源的に問う



対象と自分  
との関わり

個人個人の疑問を  
皆で共有し、学級  
全員のテーマとし  
て対話する



社会問題を  
皆の問題と  
捉えられる

“てつがくすること”と  
教科の学び

# “てつがくすること”と 教科の学び

6年生「図画工作」

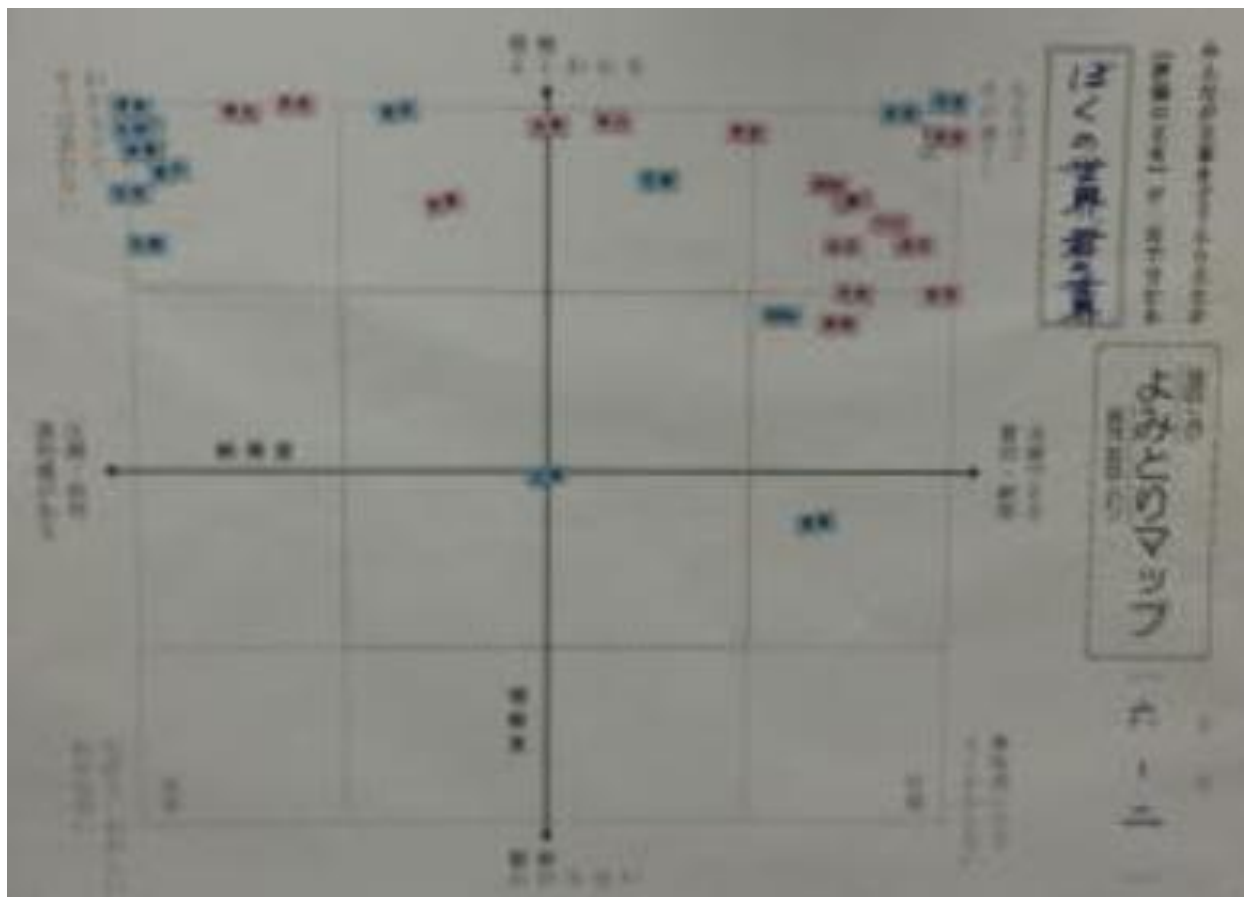
「アートレポーターになって、ギャラリートークを楽しもう」



# “てつがくすること”と 教科の学び

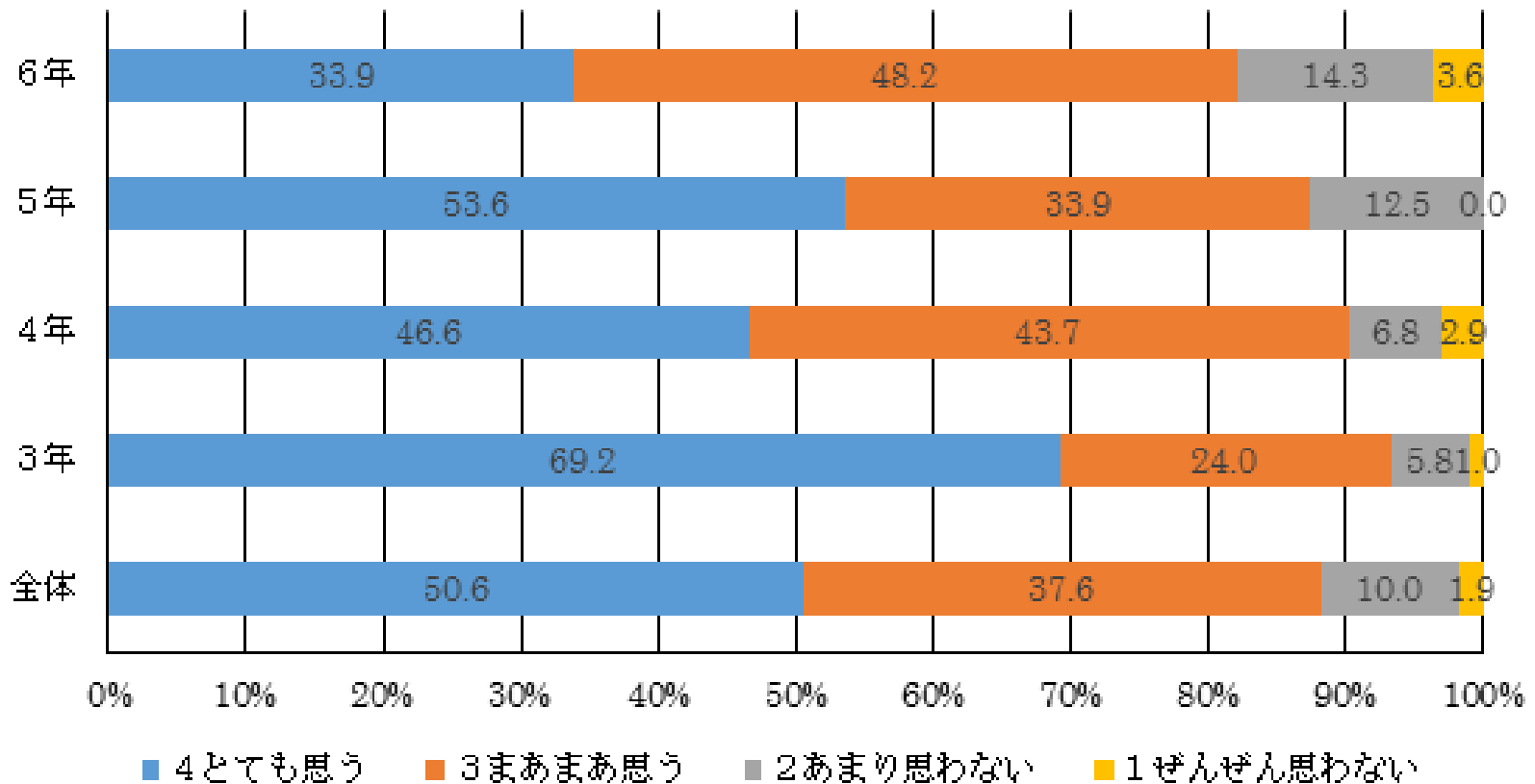
“てつがくすること”と  
教科の学び

## 6年生「国語」「対話で〈読み〉をつくろう」



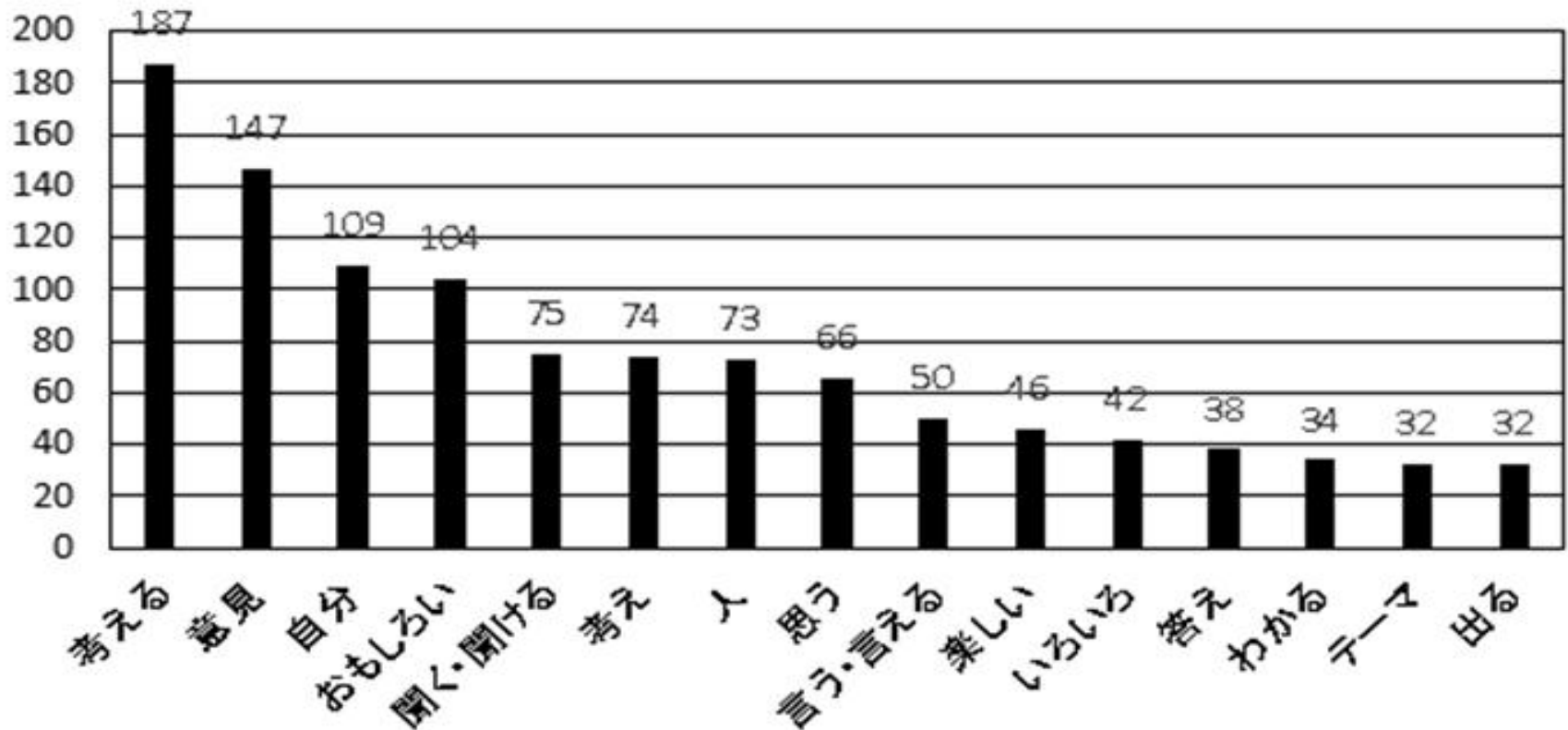
# 子どもにとっての「てつがく」 ～アンケート調査から～

あなたは「てつがく」の授業は面白いと思いますか。



# 子どもにとっての「てつがく」 ～アンケート調査から～

## Q1 おもしろい群 抽出語出現回数

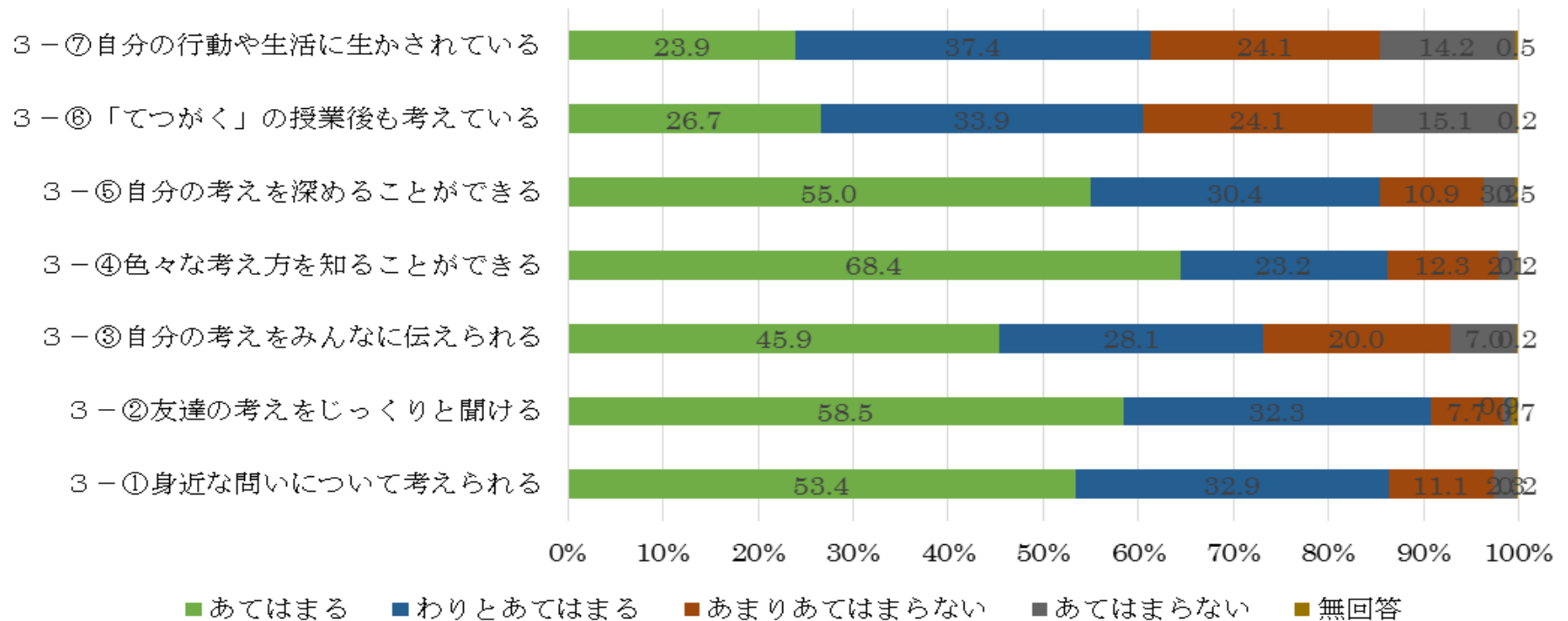


# 子どもにとっての「てつがく」 ～学級風土調査の変容から～

自然な自己開示	G1	個人的な問題を安心して話せる	2.69	2.85	3.15
	G2	自分達の気持ちを気軽に言い合える	3.01	3.25	3.35
	G3	先生がいても遠慮なく話せる	3.53	3.70	3.42
	G4	自分達の気持ちを素直に先生にみせる	3.04	3.40	3.38

# 子どもにとっての「てつがく」 ～アンケート調査から～

「てつがく」の授業の取り組みであてはまるもの（全学年）





# 「てつがく」の教師への効果

## 授業後の栄養教諭の声

先生方に指導案を見ていただくまでは、「校内研の授業はこの内容でやってみたい！」という確信？があった。でも、指導案を見ていただき、「(あなたが)本当にやりたいことはなにか？」「食育で大事にしたいことは何？」と聞かれたときに、答えられなくて、自分で自分にびっくりした。自分がそこまで深く考えられていなかったことに気づいた。

今回、先生たちに話を聞いてもらい、ようやく自分が大事にしたいことを見つけられたような気がする。私は、子どもたちの、おいしさを感じたり食の楽しさを感じられたりするアンテナ(ひきだし)をふやしていくことを大切にしたいのだとわかった。苦しかったけど、たくさん考えたからこそ、自分の軸が見つけれられたような気がしている。(後略)

# 「てつがく」に対する保護者の声

## ～保護者アンケートより～

---

「自分の考えを持つことができるようになったのではないかと、または、自分の考えを持つことがよいことだと思えるようになったのではないかと気がしています。」 **(3年生, 父親)**

---

「ある1つの言葉について、こういう意味があるけど、こうかもしれない、というように一方向でなくよく色々な方向から考えられるようになってきたと思います。」 **(5年生, 母親)**

---

「日常すべてのものに意味があると実感しているようで、興味の幅が広がり、いとおしく思う心が育ち、問いかけが増えた。」 **(5年生, 母親)**

---

「自分の考えや意見、行動に自信を持ち、それを人前で発表する事にも臆さないようになってきたように思う。自分の気付きを、先生や友人に肯定してもらえらる事で、学習への前向きな気持ちが育っていると思います。」 **(4年生, 母親)**

---

「人の意見に耳を傾けられるようになったと思います。そういう考え方もあるんだ！と少し驚いてしまうこともあるようですが、色々な経験を積んでいると思います。」 **(5年生, 母親)**

---

# 研究を振り返って

- 子どもの姿

当たり前前にことに問いをもつ

答えを性急に求めない

「てつがく」への関心・意欲

- 教師の姿勢

子ども一人ひとりを学びを見取る

授業を振り返り、問い直す

# 今後に向けて

- 「てつがく」と各教科等との関連を意識したカリキュラムの充実
- 子どもとともに“てつがくする”教師として成長すること
- 保護者による評価について
- 人間性・道徳性と思考力をどのように関連づけて育むか
- 新教科「てつがく」の評価について

研究成果の発表

## 第81回 教育実際指導研究会

### 学びをひらく

—ともに“てつがくする”子どもと教師—

2019年2月21日(木)・22日(金)

新教科「てつがく」をはじめ、全教科等の  
授業公開と協議会・講演などを行います。

ご参会・ご指導よろしくお願いいたします。

# 新教科「てつがく」を中核に 据えた教育課程の構想

— お茶の水女子大学附属小学校の取り組み —



ご静聴ありがとうございました